
ようこそ！ ハート工場へ

かみたか さち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ようこそ！ ハート工場へ

【Nコード】

N7474W

【作者名】

かみたか さち

【あらすじ】

ココたち二年生の校外学習は、ハート工場の見学です。
え？ ハート工場ってどんなところか、ですって？
それは、読んでからのお楽しみ

バスが、ハート工場に着きました。

ココは外を見たくて、つうろがわの席から首をのばしました。すると、まどがわの席のシン君がココのかたにぶつかってきました。

シートにしりもちをついてしまったココは、シン君をにらみつけました。

「いったあ。何するのよ！」

ところがシン君は、にくたらしくベロを出して、リュックをふり回すようにかつぎます。

「あぶないじゃん！」

「さつさとおりないココが悪いんだ」

平気な顔をしてシン君はバスをおりると、はしゃいでいます。校外学習の行き先が決まった時には、

『オレ、この前行ったばかりだし。つまんないの』

と、さんざんもんくを言っていたのに、です。

ふくれっ面で、ココはみんなに続いてバスをおりました。

温かなにおいの空気が、むねいっぱいに入ってきます。

「二年生のみなさん、ハート工場へようこそ」

ピンクのハートもようのシャツに、赤いハート型のスカートをはいたお姉さんが工場をあんないしてくれます。

ふわんふわんのハートがベルトコンベアにのって、きかいからきかいへ運ばれています。ココたち二年生はろうかの大きなまどにはりついて、口を半分開けたまま見下ろしました。

「ここでは、やわらかいわたでつつんだ後、もう一度ぬのでつつみます。このハートの効き目は、さびしい人が開けると、ハートがふわん、ととけて温かく心を包んでくれて、幸せな気持ちになれることです」

お姉さんが説明してくれました。

ココはまだ、時々こつそりママにだっこしてもらいます。その感じを思い出して、ちよっぴりほっぺを赤くして、えへへ、と笑いました。

次の部屋では、さっきと同じようなハートが、ピンク色のはこや、きらきらしたハート型のビンにいれられていました。

ハートたちは、工場の人の両手の中でフルフルゆれています。なかには、はこに入る前にうかびあがってしまい、工場の人があわててつかまえないければならないハートもあります。

「こちらの部屋のハートは、開けると、けっこんしたい相手が、ほわわん、と見えるんですよ」

「えー」

女の子も男の子も、きゃあきゃあ言って、先生にしかられました。でも、先生もなんだかうれしそうな顔をしています。

ビンに入ったハートを見ているだけで、ココの頭の中に、背が高くて、かっこよくて、やさしくて、勉強がよく出来て足の速い、それから面白いことを言う王子様がうかんでくるようです。けれど。

「ニヤニヤして、キモ悪」

列のとなりのシン君のいじわるな声に、ココの王子様はシャボン玉のようにパチリとはじけました。

むうつとして、ココはみんなの後についていきました。

「さあ、この先にあるのが、ハートショップです。毎日開いています。大きなハートだけでなく、このような小さいハートもありますよ」

お姉さんがニコニコと、リボンのかかったふくろを見せてくれました。中には、いろんな色の小さなハートが入っています。

「この中に、同じ色のがふたつだけあります。それを食べたふたりは、なかよくなれるんですよ。この工場でつくられたハートは、このショップかネットでしか売られていません。みんなも今度、お家の人といっしょに来てくださいね」

ココの家からハート工場は、車でだいぶ来ないといけません。パ

パがお休みのとき、連れて来てもらえるかな、と考えながらバスに乗りました。

先生が出発前に、少しならおかしを食べていいよ、と言いました。みんなは、いそいそとリュックを探っています。

あまくていいにおいがバスの中にただよいました。

ココも、急にお腹がすきました。でも、持ってきたおかしは、ベントウの時間に全部食べてしまったのです。

残しておけばよかった、と、ココはだまって前の席の、せもたれを見ていました。

においがすると欲しくなるので、息をとめました。そのココのひざに、コロン、となにか落ちました。とうめいのセロファンに包まれたグミのようです。

「やるよ」

シン君が、まどの外を見ながらココのひざを指さしています。

おかしをゆずってくれるなんて、そんなシン君は、シン君じゃないようです。シン君がやさしいはずがありません。

グミは、すき通ったピンク色で、つやつやぷるるん、としています。

ながめていると、シン君が口をもぐもぐさせながら手をのばしてきました。

「いらないなら、返せよ」

シン君の手がとどくまえに、ココはすばやくグミをつかみました。セロファンをむくと、少しつぶれたハート型のグミを、口の中に放り込みました。

むっとしたシン君が、またまどのほうに顔をむけて同じピンク色のグミをパクリと食べています。

ココは、工場のお姉さんが持っていた小さなハートを思い出して、ごくん、とグミを飲み込んでしまいました。このグミはひょっとして、なかよしになれるハートなのでしょうか？ そういえばシン君は、家族でハート工場に来たばかりだと言っていました。

うええ、と口を横に広げてベロを出したココでしたが、口の中に残ったさくらんぼ味がもったいなくてベロをひっこめました。

そつと見ると、シン君はずっとまどの外を見ています。

ココはかたをすくめました。おやつをくれたのだから、シン君もいじわるなだけではなさそうです。

バスが学校につくまでのあいだくらいは、なかよくしてやってもいいか、と思いながらココは、広がる畑の向こうに小さくなっていくハート工場を、シン君ごしに見続けていました。

(後書き)

ブログに、創作秘話載せてます。

<http://ptbkiroku.blogspot107.fc2.com/blog-entry-498.html>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7474w/>

ようこそ！ ハート工場へ

2011年9月17日03時29分発行